

第6回CAPWRセミナー「歯学部女子学生エンカレッジセミナー」

2008年12月17日（水）17：30-18：30、広島大学広仁会館中会議室にて

歯学部を卒業して様々な場所で仕事を続けている5人の女性研究者に、本音でお話をし
ていただくセミナーを実施しました。

宮内睦美	准教授	医歯薬総合科学研究科
岡広子	助教	医歯薬総合科学研究科
北川雅恵	助教	広島大学病院歯科口腔検査センター
畠山知子	歯科衛生士	診療支援部 歯科衛生部門
原久美子	講師	歯学部 口腔保健学科

司会 北仲千里（ハラスメント相談室 CAPWR）

司会：広島大学は女子学生が多いのですが、組織の上のほうに行けば行くほど女性が少ないので、もっと研究者の卵がそのまま育ってほしいのです。男女共同参画推進室 CAPWRは、それを応援するプロジェクトなんですね。ここ霞キャンパスでも、とくに歯学部は女子学生も女性の教職員スタッフも多いので、今日はお話をお願いしました。

自己紹介と現在の職に就いた経緯

ちょっと3年、のつもりが今まで続いています

宮内：今日お話ししていただく方は、一人はたんぽぽ保育園、一人は家のほうにお子さんを預けながら仕事をされているという非常にガッツのある研究者達です。私はもう子育て時期を通りすぎて、振り返る立場になれました。最近、介護のほうがそろそろ肩にかかってきて再び働きづらく感じているところです。

卒業して、「臨床検査室の医員」というお話がありました。学問として病理学ってすごく好きだったので。標本見て、自分の目で変化を揃え、理論を組むことができるので、私にもできるかなと、そのお話があったときに飛びつきました。2年目には、今の教室の助手にさせていただきました。その時に、助教授だった先生に、「動物実験は臭くて、暗くて、根性の要る、3K だけれども、一緒にやらないか」と、声かけてもらって、ライフワークである「歯周病の破壊のメカニズムの研究」を始めました。当時の動物実験施設は、A棟の一番上であって、ほんと暗いわ、臭いわ、ゴキブリまでいるわで、魔物の巣窟にしか見えませんでした。ですが意外と合っていたらしく、ちょっと3年のつもりが今まで続いています。

研究は、結論に至るまでにすごく長い道のりで、失敗も繰り返しますが、最後にまとめ上げて発表したときの達成感は格別です。きっと頭の中ですごいハッピーサブス

タンスが出ているのだと思うんですね。その、やったっていう達成感が私の原動力です。皆さんも自分が興味をもったことだったら、子育てしながらでも頑張っ続けていけると思います。

法医歯科学をやりたかった

岡：私は歯学部を卒業して、そのまま医歯薬学総合研究科の旧口腔病理学の大学院生になりました。歯学部へは、法医歯科学という分野に興味があって入学したのですが、歯学部での6年間は、歯科医師免許をとるための勉強がメインで、法医学や法医歯科学というものを勉強する機会がありませんでした。それで、大学院では法医学あるいは法医歯科学を今度こそ勉強したいなあと思って色々探しました。でも残念なことに、ちょうどその時、広島大学や、その他思いつくような国公立の大学では大学院生を募集していないということでした。それで、せっかく歯学部を出たので、法医歯科学に近い分野で、しっかりと勉強ができそうな研究室をと、母校である広島大学の口腔病理の大学院に行ったわけです。大学院では、セメント芽細胞の研究や口の中の病変の病理診断の勉強をずっとしていました。時々、開業している歯科医師の方で歯の鑑定などに協力されている先生の見学をさせていただいたり、セミナーを聴かせていただいたりはしていました。でも結局、充実していたものの大学院でも法医歯科学自体をメインでは勉強してこなかったんです。その後、いろいろ先生方に助けていただいて、たまたま歯科薬理学の任期付きの助教になることができて、今2年目、任期の終わる年度を迎えています。また次はどうしようかと悩んでいるところです。少ないながらも勉強させていただいた中で、法医歯科学というと歯科医師として、あるいは科学者としていろんなことを広く浅くでも知っていることも大切だと考えるようになりました。だから、いろんなところを転々としてでも少しでもかかわりのあるところに残っていったら、道が開けてくるのではないかなと思っています。

プライベートでは、大学院修了後に同級生のだんなさんと結婚して、この7月に息子が生まれました。岩国の実家に毎朝7時前から預かってもらって広島へ通ってきています。帰りも夜9時過ぎだし、泊まりの仕事もあるので、子供には好ましくない生活なんですけど、実家の協力があるうちはもうしばらくこれでやっていけるんじゃないかな（やっていかざるを得ないかな）と思っています。

女性研究者の卵のひとり

北川：宮内先生にも指導をして頂いて、口腔病理で学位を取りました。現在の職にあるのは、言葉は悪いかもしれませんが、偶然ですね。大学院4年目の終わりに「もう1年口腔病理で働きませんか？」と口腔病理学教室の教授からお話を頂きました。まだ研究についてやり残した感じがあったので、1年間口腔病理の助手をさせて頂きました。その任期が終わる頃、今度は、「病院の口腔検査センターに席が空くんだけど、頑張っ

てみない？」とお話を頂いて、審査を受け、今は大学病院の口腔検査センターに行き着いて3年になります。

研究では、大学院生の時からのテーマでもある、培養細胞をつかった研究を得意としています。臨床では、歯科医師としてはちょっと特殊なのですが、ドライマウスや金属アレルギーの患者さんの検査と治療相談を行っています。ドライマウスについては半年前くらいからドライマウス外来として任せて頂いているので、これからはもっと衛生士の方とかとチームを組んでチーム医療をしたいと思っています。現在は、研究もしたり、臨床もしたりと、いろんな幅広い勉強をさせて頂いているところです。

子どもは今1才3ヶ月になる息子がいます。息子は院内にあるたんぼぼ保育園に通っています。働きながら、子育てしながら、っていうのは、本当にすごく大変ですが、まわりにサポートがあるっていうのはすごく大事で、CAPWRの支援員など、たくさんの方の支援を頂いて、今があると思っています。

それから、私もぜひ育てていただきたい女性研究者の卵の一人だと思っています。大学に残って仕事をしていくと言うのは、もちろん努力と、実力と、さらに、運とか、縁とか、周りのサポートとか、いろいろな複合的な要因があると思います。ですから、女性研究者支援のような協力的なバックアップ体制ができつつあることで、私自身はすごくエンカレッジして頂いています。

歯科衛生士から大学院へ

畠山：歯科衛生士の畠山です。臨床経験は非常に長いのですが、現在は病院の障害者歯科というところにおります。私の人生プランはぼんやりと結婚しても仕事を続けたいし、子どもも生みたいなど、まあよくある女の子だったと思います。

社会人になって10年目くらいに、このまま歯科衛生士として生きていくのであればもっとキャリアアップしないといけないと感じ、そこからは必死でやりはじめました。

私は結婚も遅かったのですけれども、子どもがすごく欲しかったです。子どもを育てながら働きたいという思いはさらに強く持つようになりました。大阪から主人の都合で広島に来て、不妊治療もしていましたがなかなか恵まれず、もう諦めて仕事をしようよかと考え、広大に就職しました。ところが4月から入職したのですが4月の半ばごろに妊娠が発覚しました。……うれしかったのですが、どうしようかな、と思いながらも、相談したら「だったらもう辞めた方がいいんじゃないの？」と言われました。時間給職員でしたから、給料も10万くらいしかなかったし、保育料も結構かかりますし、両親も広島にはいないし……。個人的なメリットを考えると無理して働くこともないかもしれません。けれども、せっかく自分が子育てしながら働きたいという思いと、看護師と違って歯科衛生士は辞めてしまう人がほんとに多くて歯科衛生士の社会的地位があがらない、だから長く続けていく環境がない、そういうことも変えたいなという思いで、使命感に燃えて、「いや、やれるところまでやります！」

なんて言って、産休（産前 6 週と産後 8 週）で復帰しました。生後 1 ヶ月間は主人のお母さんに見てもらい、3 ヶ月目からは保育園に入れて、（育休はなかったの）とにかく継続できればと頑張りました。病気したら続けられるかなという不安もありましたが、家族とか周りにも支えてもらいながらなんとか続けてこられました。

子どもが 2、3 歳くらいになり少し余裕ができて、「ちょっと頑張ってみよう」と、産業能率大学の通信の 4 年制の大学に 3 年次編入で入りました。そこで、情報経営学と産業心理学を学び、産業カウンセラーの資格も取得しました。この頃からいろいろと仕事を見る目が変わりました、大学病院という環境を生かしてできることはなにかと、エビデンスを意識するようになり、研究にも興味を持ちました。そして、研究費補助（科研）の申請をしたところ採択されまして、音波歯ブラシの効果について研究する機会を持ちました。今までの私には研究なんかできないなんて思っていたのですけれども、方法や材料によって結果をどう予測するかとか、結果のどの部分を評価するかで考察は変わってきます、おもしろいなって感じて、そこから、はまってしまいました。

自分のキャリアアップを考えたときに、経営学や心理学には進まず、もう少し専門性を高めたい、論文を理解したいと感じ、大学院に挑戦することにしました。そして、今年の 4 月から歯周病態学の講座の博士課程に入学しました。

今回もかなり無理している感じなのですが、「やれるところまでやってみようかな」と日々努力しているところです。

霞に 39 年勤務。18 年間病院で歯科衛生士、その後教員に

原：口腔保健衛生学講座の原といいます。歯科衛生士です。学校卒業して 39 年間、この霞に通っています。歯科衛生士の専門学校を卒業して、歯学部附属病院に勤務し、18 年目の時に歯学部附属歯科衛生士学校の教員の話があり教員になりました。当初は 2 年制の専門学校でしたが、4 年前に 4 年制大学となり、大学の教員をしております。私は、今でこそ、大学を卒業し修士と博士課程を終えています、専門学校卒業で先生方のように大学を出ているわけではなかったの、研究者としてのスタートラインから違ってます。しかも、当時は一年制の学校しかなかったの、私は 1 年制の卒業で、その私が大学の教員をしているという驚きでもあります。

教員になった経緯ですが、歯学部附属歯科衛生士学校教員の定員増による選考がありました。私は、18 年間、ずっと患者さんと一緒に、患者さんの笑顔で育てて頂きましたので、患者さんと離れるのが嫌で嫌で、一週間泣きましたが、「学生のために行ってもらえないか。」という一言が心に響きました。それと、主人が、「残りの人生の中で教員になるチャンスはそうあるもんじゃないんだろ。二度とないチャンスだったら 挑戦してみたら。」と後押しをしてくれて、教員になりました。

そもそも大学に行こうと思ったのは、病院勤務から一晩明けたら、私は先生と言われ

る立場になり、立場上とはいえ歯学科の先生方から、原先生と呼ばれることに対しての心の自信が欲しかったのです。それで、佛教大学の社会福祉学を専攻しました。社会福祉学を選んだのは、歯科衛生士教育に必要なと思ったからです。通信制ですのでレポートを出して科目試験を受け、京都までスクーリングに行きます。当初は4～5年で卒業できればと計画していたのですが、子どもの行事や歯科衛生士会の役員会等で科目試験が受けられなかったり、夏休みに子どもをおいて京都までスクーリングに行くのも大変で休学しようと思いました。しかし、途中であきらめる母親の姿を見せることはいけないと思ったことと、主人が、「一度休むと復帰できなくなる。子どもは大丈夫だから休学するな。」と言ってきて、結局11年かかりましたけど卒業できました。一番下の子が小学生から大学生になってました。卒業式は、家族みんなで京都まで行きました。そんなときに、知人から修道大学で社会人の修士制度が開始されるので受験してみないかと紹介され、受験しました。願書を出しに行った日に足の骨を折って、受験のときは松葉杖で行きましたが、骨折のお蔭で自宅療養となり、思わぬ受験勉強の時間が舞い込みました。英語の要約試験も、たまたま前日に見ていた学生の環境問題レポートと同じテーマだったので、これまた運が良かったです。面接官の方から「あなたは合格したら通ってこられるのですか」と聞かれ、「合格させてくれたら来ます。」と言いました。やる気を見て下さったのか、3つ目の運なのか合格しました。2年間、ここから修道大学に通わせていただきました。職場の皆さんのご協力で、毎週水曜日の午後から有休休暇を使って行かせて頂き、他に毎土曜日と平日の夜とかも片道1時間かけて通いました。

ちょうどその頃、薬学の博士課程を終えた歯科衛生士教員から博士進学を勧められました。3人の娘も適齢期になるので金銭的に無理だなと思う反面、ここで休んだら勉強の勢いが途切れるかなと思ったり、一年制卒の私がどこまでいけるのか挑戦したい気持ちもあって、思い切って家族に、「博士に行ってもいいかね。結婚費用が出せなくなるんだけど・・・」と相談しました。子ども達は、「お母さんが行きたいのでしょうか。お母さんが行きたいのを辞めさせると後が大変だし、好きにしたら。」と言い、主人は、「やってみろ」と言ってくれました。秋入学の4年半かかって、今年の2月に無事に歯学の学位を頂きました。娘婿も加わって家族みんなで修了式にでました。研究テーマは、唾液腺マッサージによる口腔機能賦活です。専門学校時代から唾液腺マッサージの効果とか、どんな手技がどういう形で効くのかというテーマを学生と一緒にしていて未解決のままだったので、どうしても知りたくて大学院のテーマもそれにさせて頂いて、納得の行く結果が出たので、今は満足しています。引き続き研究室に行かせて頂き研究を続けています。

学校では、色々な学生さんがいて、学生に私が育ててもらったという感じでもあります。手を焼かせた学生さんから5年くらい経って、「あのときの先生の言葉があったから、今の私があるんだ。」という手紙がぽつと来ます。そう言うときに自分の存在を感じ、やりがいになって頑張れています。大学生ともそう言う関係が築けたらと思っています。

家庭生活はうちの娘3人に言わせると、「お父さんほど不幸な人はいない」と言います。

学会や研修会でよく留守にしますし、最近の日曜日の朝は、「めしができたぞ〜。」の主人の声で起きますし、主婦してない状態です。主人がやるほうが早いし、上手なので手を出さないようにしています。ほんとはできるんだけど、できないように見せて、「ああできないんだ、俺がやってやろう。」って思わせる。子育ても大事ですがご主人育てるのも大事ですよ。3人の子育てをしながら働いている自分を誇りに思いますし、それ以上に主人を誇りに思います。

ここまでの道のりには、まさに運と巡り合わせを感じてます。「原さんって、運だけで生きてるよね。」って言われますが、その通りで、大学病院に就職できたこと、大学・修士・博士と道筋をつけて頂いたこと、専門学校で教員・大学の教員になれたことは、その大事な節目節目に助けて下さった方がおられた訳で、そのご縁で何かが起きてます。その時々、適切な助言して下さったキーパーソンの方々にすごく感謝しております。

参加者からの質問

参加者1：助手をしています。今日は貴重な、すごく素晴らしいお話で感動しました。私も研究をもう20数年間やって、子どもが2人いるのですけれども、いまだに、働いている研究者のお母さん方がどうやってこういう毎日を乗り切っておられるのかと思うんですよね。自分も皆さんに助けられながらやっているのですけれども、ほんとに色んなことがありました。

参加者2：私も、2歳半の娘がいるのですけれども、皆さん一体どうやって、職業と成り立たせて生活を送ってらっしゃるのかなーっていうのを具体的にお伺いしたいというところがありました。やはり周囲の方々の助けを上手くというか頼って頑張るしかないのかなと改めて感じました。皆さん上司との関係はどうだったかというのを、差支えなければお答えいただけたらと思います。

大きかった女性の先輩の存在

宮内：子どもは一人、主人の両親と同居をしています。子どもが小さいときは、主人の両親にみてもらいました。3歳からは、幼稚園に通わせました。自宅で支えてくれる人がいるそういう点で恵まれていたと思います。子どもを持ちながら働き続けるというのは、最前線から一歩退くことになりますから、同僚にも上司にも、非常にすまないという気持ちでいっぱいです。例えば、夜遅くまでみんなは仕事をしているのに、子どもがいるから自分は帰らないといけない。“みんなに迷惑をかけて申し訳ない”という気持ちに押しつぶされそうになります。続けられたのはほんとに、理解のある上司と同僚に巡り合えたからだと思います。それから、職場に同じ年代の女性の先輩がいたということは、私にとってすごく大きかったですね。私より一歩先にその先輩が歩いている。私はただその先輩の通ってきたあとをずっと辿ってきたにすぎない。“初めて

物語”の先輩はものすごく苦勞されたんじゃないかなと思います。

その先輩から「お母さんは一人しかいないのだから帰ってあげなさい」って一言もらうと、帰りやすくなる。気持ちに区切りがつけられる。背中をポンッと叩いてくれる人が一人でもいれば、続けられる、頑張れると私は思います。その先輩にはすごく感謝しています。だから、女性ってもうちょっと増殖しないといけないと思います。まずは女性同士がスクラム組んで支え合うことが大事だと思います。子育ての時は、子育てにある程度シフトして。周りの方には頭を低くして、申し訳ございませんというスタンスで、なんとか続けて欲しい。そしてその時期を通り越したら、今度は若い人たちをもっと支援してあげる、というように。そういうことってすごく大事なんじゃないかなと思います。女性だけでなく男性もそれが気軽に、当たり前のできる職場になったら、一番いいと思うのですけど。

周りの方々に支えられて

北川：目下、上司に「帰りなさいよ」と言っていておられます。まだ子どもが一歳なので、つい最近も水疱瘡をやりましたし、突発性発疹もやりました。保育園に行けば風邪は必ずもらって来たりして、月に1回は休まないといけないという状況です。でも、本当に助けていただいているので、今度は私をもっと自由度が上がった時には、次の若い世代の方に貢献したいと考えています。貢献するためには大学で仕事を続けていかなければいけないですね。

手厳しいことを言われることもありますが、それが逆に私の原動力になるかなと思っています。子どもにはすまないとも思いますが、私の背中を見ながらこの子が育っていってくれればと期待しています。

仕事をしながら子供を育てる上で、もちろん主人の協力なくしては出来ません。昨日も私、急激な腹痛に襲われて、研究者としてはあり得ないぐらいの時間ですけど、9時に寝てしまいました。そのあと家の洗濯、掃除、子どもの保育園の準備すべて主人がしてくれていました。子どもが病気の時には、主人と私の両親が広島におられますので、バックアップ体制をとってくれています。こんなかんじで、今は日々どうやって乗り切るかと毎日綱渡りです。子どもが1歳3か月になって、この子と一緒に育ってきている、生きてきたのだというのが今の実感です。

出合いの場は？

司会：質問から読んでいきましょう。「専門職だとなかなか出合いの場がないと聞きました。が実際大丈夫でしょうか。」とか、「彼氏が子どもを育てながら働くことにあまり好意的ではないのですけど、どうやって説得したらいいですか。」どなたかどうぞ。

北川：私の主人は大学院の先輩で、細胞を培養しながら愛も育ててしまったみたい。割

と身近なところで見つけました。何かそれこそ縁ですよ。

彼氏の件ですけれども、何回か話し合いを試みて、理解してもらえないようであれば、自分のライフプランに合った彼を検討するのもひとつの策かなと私は思います。

畠山：私も同感です。自分のライフプランというか、価値観がずれていると、後々苦労しますので、しっかり話し合われて、お互いの理解を深めた上で決断された方がいいですね。仕事を続けるには、家庭での支援なしでは絶対不可能ですから。

どこに縁が転がっているかはわからない

原：私は20歳で就職して、3年の間に歯医者さんと絶対に結婚しようと思っていたのですが、現実は一筋くって。出会いを求めてYMCAのサークルに入って1年目の頃、主人が入ってきました。いいなと思ったのですが、サークルの若い子の人気もんでしたので、私は想いを言うことが出来ませんでした。しかも主人は失恋してサークルに来ていて、その失恋の相談を私にしていました。私の気持ちも知らずに・・・です。ある日、サークルのグループで野外に遊びに行ったのですが、主人を好きな子がいて、その日も主人の周りで一生懸命に料理をしていました。その様子を見て、私はあきらめようと思い、彼女を横目に見ながら料理されてきた物を、彩りよく見えるように盛りつけてました。ところがおばあちゃん子の主人は、その色の取り合わせで私に気がついたみたいなのです。おばあちゃんの料理は、いつも煮物中心の茶色一色だったそうで。ほんとに色合いだけです。どこに縁と運が転がっているか分からないものです。縁と運を大切に。

質問用紙に答える

子育てについて

司会：子育てに関する質問が多いです。「子どもが寂しがったりした場合はどのような対応をしているのですか」とか、「一番仕事をして辛いことはなんですか、どう解決しようとしましたか」とか。

時間は短くてもきちんと子供と向き合う

宮内：私が子育てをする頃は、全部、“お母さんは子どものそばにいて”とか、“子どもとの貴重な時間を自分のために使うと子どもがダメになる”とか、そういうような子育て書ばかりだったのです。読んでいくうちにすごい腹が立ってきて、「もう読まない」と閉じてしまいました。子どもってというのは親の姿を見て育つ。だから、私が一生懸命頑張っていれば、それは子どもも分かってくれるし、接する時間は短くてもあなたは私の宝物であって、私の一番大事な人なのだっていう気持ちをきちっと伝えることが出来たら、まっすぐ育ってくれるだろうと勝手に仮説を立てて育てました。

子どもには、時間は短くてもきちんと向き合うこと。お母さんは僕を見捨てていない、

長いこといなくてもお母さんは必ずこの時間になったら、僕のところに来て抱っこしてくれる。そういうようなところがきちっとフォロー出来ていたら、たぶんいいんじゃないかなと思います。

成功と失敗から学ぶ

原：3人の娘を育てて、成功例と失敗例、山ほどあります。問題を起こした時は、私が働いているからと自分を責め、何度もやめようと思ったこともあります。でも今は、3人の子たちが、「最初は寂しかったけど、やっぱりお母さんが働いていて良かったよ」と言ってくれたのが、私の支えです。なかでも、不登校もし、中学の卒業式もいかずと一番手を焼かせ、その子を連れて死のうかと思った子が、今は一番私を助けてくれています。私は、その子に無視され続けたとき、とにかくお昼のお弁当と晩御飯だけは作りました。捨てられてもです。それしか娘と私との会話はないと思ったのです。他の2人の娘が未だに言います。あのお弁当があったからこそ、立ち直れたと思うよと。その子が働くようになって、私の母に「お母さんはすごいね。働きながら3人も、よう育てたね。」と言ったそうです。嬉しかったです。

今でも可愛そうなことをしたと思う失敗があります。お姉ちゃんだから当たり前だろうと思ったことです。下の子を保育園に迎えに行き帰宅して、帰ったら早くご飯を食べさせて寝かせてと、早く早くばかりを考えていたので、学童保育から帰って一人寂しく待っていたお姉ちゃんは、待ってて当たり前、「〇〇ちゃん、ありがとう。あなたのお蔭でお母さんはお仕事が出来たよ。」の一言が言えてなかったのです。この一言を大切にしてください。

それから、『働いているから可愛そう』、『申し訳ない』と思い、『お母さんらしくしなきゃいけない』、『あなたはこれしなくていいのだよ』、『子どもはそこにいて』、みたいな育て方をしたのは間違いだっと思っていました。帰ったら直ぐに食べられるように、朝5時から起きて晩ご飯の支度をして出勤してました。しかしこれでは、私の頑張りは伝わりませんし、労りの気持ちも育ちません。子供たちは寝ているので、実際に見えてないのです。可愛そうとか申し訳ないとかそういう気持ちを引きずってはいけなかったんです。今日一日、みんな、お仕事、学校、保育園とお疲れさん。さあ、一緒に頑張ろうね。助けてね。という気持ちを出して、食事の支度、掃除、洗濯、全部、子どもと一緒に生活を楽しみながらやれば良かったなと反省です。

女性として

司会：「女性ということで嫌なことがあったことあったことはありますか」、という質問と「女性がこの世界で働いていく上で大変なこと、これだけはやっておいた方がいいということがあれば、教えて下さい。」という質問も来ています。

男性と女性が不平等条約を結ぶ

宮内：女性だからいやな思いしたかなっていうのは、子育て中の心ない一言。「定時に帰るっていうのは、職場の人間としてはかたわだよね」って言われたような経験、それくらいかな。言いたいなら言っといてという感じで流していたんですけども、傷つきますよね。

男女共同参画というのは、男性と女性が不平等条約を結ぶことだと思っています。女性は子どもを産んで、ある時期一線から退くのは当たり前と。ちゃんと受けとめていただきたいと。それで前線に戻ってきた時にはばりばり働く。その時に女性にも男性と同じような選択肢が残されていて欲しいなと思います。それを整備するのはこれからの大学の課題かなと思っています。みなさん協力し合って頑張りましょう。

なんでもやってみる

岡：私は、歯科医師の中でずっと、学部と大学院で10年間いたんですが、職を得たときは周りに歯科医師が私しかいないんですね。その時に、私たちの強みっていうのは、医療の現場に出た経験もあって、それをしっかり研究に活かして、研究と臨床を繋げる役割が出来るっていうことだなと感じました。学生の皆さんは、せっかく歯学部に来たので歯学部、あるいは霞で学べることは、学生の間ガツガツとなんでもやってみたらいいと思います。それが、違う世界の人と仕事をする時になった時の強みになるんじゃないかなと思います。

いやなこともポジティブに切り替える能力

北川：嫌な思いをすることは多々あります。でも、通り過ぎてしまっ忘れてるっていうのがほんとのところだと思っています。嫌なことがあっても、いかに自分の中でそれをポジティブに切り替えるか、そういう能力をつけることが女性としてというか、人として必要、こういう社会で生きていく中では必要じゃないかと私は思っています。そして、女性として、是非、結婚も子育てもしていただきたいと思っています。

ベストを尽くす

畠山：私は大学院に入る最初に教授から、「歯科衛生士だからって甘えないでね」と言われました。歯科医師の先生とはやはり基本的な能力差はあります、だから私には出来ないという甘えは許されないと思います。とはいえ甘んじるつもりはないのですが、子供の事情などでは頑張っても無理なところもあり、後ろ髪紙曳かれる思いで帰ることもあります。その分、やれる時は頑張ろうと自分にとってのベストは尽くしています。

個々の女性という偏見はあまり感じませんが、歯科衛生士自体が女性社会ですので、一くりにされているところがあり、歯科衛生士の能力を低くみていると感じることはあります。

お互いに尊敬し合う

原：私も女性だからと言って嫌な思いをしたことはないのですが、ただ、「衛生士が大学院に行ってどうするの、何するの。」というような学歴差別が一番悔しかったですね。確かに英語力など歴然と低いですが、衛生士だろうと誰だろうと、知りたいことに関する研究をするのですから、「何するの。」ではなく温かく見守って、時には厳しく指導をして頂きたいですね。初めから“衛生士だから”という人は相手にすまいと思いました。いろいろな職種が、それぞれの専門性をお互いに尊敬し合って患者さんのために活動する。霞キャンパスってそういう意味があるんじゃないかと思っているので、そういう考えが出来ない人は、あなたが落ちていくのよ。みたいな、博士課程を終えた、今だから強く言えるんですけど、そんなふうに思います。

これだけは、についてですが、2番目の子がよく熱をだし、1年間に5~6回入院したことがあるのです。涙ながらに「また、入院しました」と言いながら、あまりにも迷惑をかけるので、辞めようと思いました。その時、先輩は、「出来るときにやったらいいんだから。」と言って下さいました。その一言に救われ、元気になったら、一生懸命働こうと思いました。その時々、自分に出来ることを誠心誠意、一生懸命やっていく。そうすると周りが動くんです。あ、そんなに一生懸命やってるんだったら、ちょっと手を貸そうとか、次はこうしてあげようとかいいう形で、周りに風が起きて、何か動いていく。そして自分に出来ることを返していく。それが大事なことだと思います。その一生懸命さが運と縁を呼びます。そして素直さと聞く耳を持つことも忘れないで下さい。これからも出来るときに出来ることを精一杯、真面目にやっていきたいと思っております。

司会：今日はみなさんありがとうございました。

参加した皆さんの感想より

「実体験に基づくお話はとても参考になり勇気づけられました。」

「家庭を持った女性でも、自分の進みたい道を進んでいくことは可能なのだとうれしくなった。」

「大学院に興味があるが、歯科衛生士として何が出来るのかという思いがあった。今日のお話を聞いて、自分のやりたいことがあればどんどん頑張っていいたと思った。将来は結婚し子育てもして、いろいろな経験を積みながら頑張りたいと思いました。」

「普段聞けないことを聞くことができてよかった。どんな生活を送っているのか、どのようなきっかけなどで今の仕事をなさっているのかなど聞いて、とても参考になりました。自分のやりたいことを続けることは大変なこともあるけれど、反面で返ってくるのも大きいと思いました。」

「来年の春から働くことになるのですが、不安な部分が少なからずありました。今日の話聞いて、働くことは楽しいのではないかと思う事が出来ました。また、先生を身近に感じることもで

きよかったです。」

「女性が働くことにおいて、周囲のサポートや理解がないとなかなか難しいのだとあらためて思いました。女である以上結婚もしたいし、子どももほしい、仕事もしたいというのは欲張りな望みのような気がしますが、あたりまえのことですよ！ぜひ社会がそれをあたり前のこととして受け入れるようになればいいと思います。」

「先生方のお話はとても具体的だったし、苦労されていることが伝わったし、勇気をもらえてとても感動しました。私も将来、先生方のように子育てをしながら働きたいと強く思っていますが、人生プランを考えたとき職場に戻るだろうか、子どもの面倒をどうしようか、今の彼氏とでは無理かな、とか様々な壁があって全く将来のことが考えられませんでした。でも、先生方の話を聞いて、多少の苦労はあるけれど、周りのサポートを得れば、子育てしながらでも可能だとわかって頑張ろうと切実に思いました。また、このような機会があればぜひ参加したいです。ありがとうございました。」

「宮内先生、北川先生のもとで研究をさせていただいて、先生方の大変さは身をもって感じているつもりでした。しかし、実際に先生方の話を聞いて大変さや、バイタリティーに非常に驚かされました。また、母が仕事をしながら、僕を育ててくれたので母もすごく大変だったんだろうなと思いました。将来、結婚した時は理解力のある夫になろうと思いました。自分自身の道もまだ不明確で、どういう道に進もうか迷っていますが、人生にはいろいろな道があるんだとしみじみ感じました。運と縁と出会いに感謝してこれからもがんばっていこうと思います。お忙しいところありがとうございました。」

「さらりと語られる言葉の一つ一つが今の私にとってはとても力強く、生き生きしたものに感じました。たくさんの経験を経て学ばれたことを聞いて本当によかったです。逆境を味方にできる強い意志や柔軟な姿勢や運をしっかりつかみ取るエネルギーや機敏さを私も身につけていけたらいいなあと思いました。」

「実際に研究をされている方からお話を聞いて、初めてどんな環境なのかがわかりました。ありがとうございました。」